

第34講 【 診断論 IV 】 教科書 P.105～111

3. 問診

: 病人やその付き添いへの質問を通して疾病に関係する情報を得る診察方法。

『 問診の内容 』

- ① 一般状況 : 氏名、年齢、性別、婚姻、職業、住所
- ② 生活習慣、飲食の嗜好
- ③ 家族歴、既往歴
- ④ 現病歴 : 発病の原因と経過、治療経過
- ⑤ 現在の症状 (現症)

: 寒熱、汗、頭身、胸腹、耳目、睡眠、飲食と味覚、二便、婦女、小児

※ 現症を問う場合、慣れるまで以下に紹介する『 十問歌 』の順に質問すると聞き忘れがなくなり良いと言われている。

『 十問歌 』 張景岳 (明代) ; <景岳全書・十問篇>

「一問寒熱二問汗、三問頭身四問便、五問飲食六胸腹、

七聾八渴俱当辯、九問旧病十問因」

一に寒熱を問い、二に汗を問う。三に頭身を問い、四に便を問う。五に飲食を問い、六に胸腹を問う。七に聾、八に渴ともに弁じ、九に旧病を問い、十に病因を問う。

※ ここでは臨床上最も重視される現症について紹介する。

1) 寒熱を問う

: 悪寒と発熱の有無を問う。

* 悪寒とは 寒気を感じ暖かくしても治まらないもの。

{ 畏 風 — 寒がる、暖かくすると治るもの。
悪 風 — 軽度の悪寒。風に当たるのを嫌がるもの。

* 発熱とは 体温が正常体温より上昇するもの。

あるいは全身もしくは体の一部に発熱を自覚するもの。

【 発熱と悪寒のパターン 】

	悪寒発熱の症状	証
悪寒発熱	悪寒、発熱ともに出現	表 証
但寒不熱	畏寒のみ出現	裏 寒 証
但熱不寒	発熱のみ出現	裏 熱 証
寒熱往来	悪寒、発熱交互に出現	半表半裏証

① 悪寒発熱 : 表 証 (感 冒)

悪寒が重く発熱は軽い . . . 風寒表証
 発熱が重く悪寒は軽い . . . 風熱表証

② 但寒不熱 :

(久 病) 但寒不熱 + 顔面蒼白、手足が冷たい . . . 陽 虚 証
 (新 病) 但寒不熱 + 脘腹部冷痛 (暖めると軽減) . . . 実 寒 証 (寒凝中焦)

③ 但熱不寒 : 裏 熱 証

発熱には壯熱・潮熱・微熱 (低熱) の 3 種類がある。

壯 熱 : 高熱 (39°C 以上) が続く。裏実熱証
 症 状 . . . 高熱 + 顔面紅潮・口渴・大汗・脈洪大
 潮 熱 : 潮の干満のように、定刻 (普通は午後) になると発熱、あるいは熱が高まる。

『 陰虚潮熱、湿温潮熱、陽明潮熱の 3 つに分けられる。 』

* 陰虚潮熱 : 午後あるいは夜になると発熱 (微熱) する。
 症 状 . . . 微 熱 + 五心煩熱・骨蒸潮熱・盗汗・頬紅
 ・口や喉の乾燥・舌紅小津・脈細数

微 熱 : 長期 (半年以上) にわたって軽度の発熱 (38°C 以下) が続く。
 あるいは、発熱を自覚するが実際の体温上昇は見られない。
 陰虚発熱、夏季発熱、気虚発熱等がある。

④ 寒熱往来 : 半表半裏証

悪寒と発熱が交互に出現する。

* 少陽病の寒熱往来

症 状 . . . 寒熱往来 (不定期発作) + 胸脇苦満・口苦・咽喉乾燥
 ・食欲減退・脈弦

2) 汗を問う

: 発汗の有無、時間、部位、量、兼証等について質問する。

* 汗とは・・・陽気の働きによって津液が蒸発し、体表に排泄されたもの。

① 表証の汗

無 汗 ・ ・ ・ 外感風寒証 (悪寒発熱・苔薄白・脈浮緊)
有 汗 { 外感不熱証 (発熱悪風・舌尖辺紅・脈浮数)
 太陽中風証 (悪風発熱・苔薄白・脈浮緊)

② 裏証の汗

- * 自 汗 : 気 虚
 症 状 ・ ・ ・ 普通にしていて汗をかく。活動時にひどくなる。
- * 盗 汗 : 陰 虚
 症 状 ・ ・ ・ 寝ている間だけ汗をかく、目がさめると汗が退く。寝汗。
- * 大 汗 : 裏熱亢盛、亡陽
 症 状 ・ ・ ・ 大量に汗が出る。
- * 戦 汗 : 温 病
 症 状 ・ ・ ・ 全身戦慄のあと汗が出る。

③ 局所の汗

頭 汗 : 頭部に限って汗をかく。

- * 頭汗 + 心煩、口渇、苔黄、脈浮数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 上焦熱蒸
- * 頭汗 + 体が重い、疲労倦怠、苔黄膩 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 中焦湿熱鬱蒸
- * (重病の末期) 額に大汗をかく + 四肢厥冷、気喘、脈微 ・ ・ ・ ・ ・ 亡 陽

半 身 汗 : 半身のみに汗をかく。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 中 風

手足心汗 : 手のひら、足のうらに汗をかく。

- * 手足心汗 + 口・喉の乾燥、便秘、尿黄、脈細 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 陰経鬱熱

3) 頭身を問う

『 頭部を問う 』

(1) 疼痛

* 頭痛部位と経絡の関係

- | | | |
|---|-------|-------|
| { | ① 陽明経 | ： 前額部 |
| | ② 少陽経 | ： 側頭部 |
| | ③ 太陽経 | ： 後頭部 |
| | ④ 厥陰経 | ： 頭頂部 |

* 外感病頭痛の特徴 : 急、短、激烈、持続性

* 内傷病頭痛の特徴 : 慢、長、緩、間欠性

- | | | |
|---|----|--------------|
| { | 気虚 | ： 隠痛、活動後悪化 |
| | 血虚 | ： 隠痛、眩暈、顔面蒼白 |
| | 腎虚 | ： 空痛、腰膝酸痛 |

(2) 目眩

- ① 肝陽上亢 : 眩暈、頭部脹痛、面紅、耳鳴り、口苦
- ② 痰湿内阻 : 眩暈、頭が重い感じがする、胸悶、悪心、痰
- ③ 気血両虚 : 眩暈、目のかすみ、顔面蒼白、動悸、失眠
- ④ 腎精虚 : 眩暈、耳鳴り、遺精、健忘、腰膝のだるさ

『 体幹、四肢を問う 』

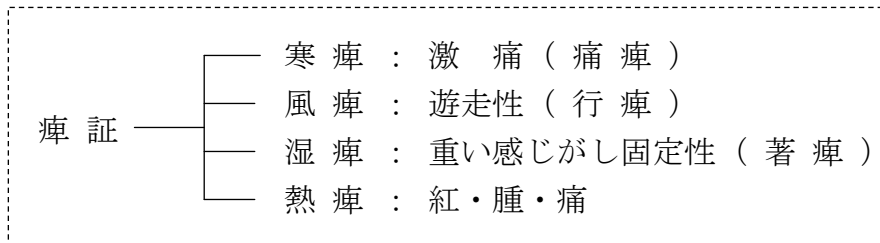
(1) 身重

外感湿邪 : 頭身部の重だるさ、腹・部の不快感、膩苔

脾気虚 : 身が重く横になりたがる、呼吸が小さく言葉が少ない、力が入らない

(2) 四肢痛

* 痺証 : 外邪 (主に風寒湿邪或いは熱邪) が肢体の経絡・筋肉・関節に侵入し気血の運行不暢が起こると、疼痛・重だるさ・麻痺が起こり、また関節の腫脹・変形・屈伸不利等の症状を伴うこともある。



(3) 腰痛

- | | | |
|---|----|--------------------------|
| { | 腎虚 | ： 隠痛、腰がだるく力も入らない |
| | 寒湿 | ： 冷痛で重い感じがする、曇りや雨の時に悪化する |
| | 瘀血 | ： 刺痛、固定性、拒按 |